

自然教室チームだより 9月行事報告 初秋の矢田丘陵大和民族公園 自然観察会 辻本 信一

令和3年9月13日(月)コロナ禍による自粛が続く4月以来5か月ぶりとなる自然観察会を矢田丘陵大和民族公園にて実施致しました。

今回は待ちに待った田代貢先生の2年ぶりのご登場とあって、はじめて参加された7名の方を含め、予想を遥かに超える17名の方にご参加いただきました。



【朝の集合】

その日の天候はというと、これまでコロナによる自粛で我慢を強いられてきた私たちへの天のご褒美かと思えるくらい強い日差しも終始遠慮気味、爽やかな絶好の観察日和となりました。

田代先生にご用意いただいたA4(3枚)B4(1枚)の情報満載の図解入り資料が全員に配られ、9時定刻に観察会スタート。集合場所ともなったケヤキの前では、大きさの違う2種類の葉というテーマで、葉腋に種子をつけた小さな葉が複数ついた枝の落枝による種子散布の説明を受け、本日観察会の口火が切られました。



【ケヤキの2種類の葉】 【マムシも急遽教材に】

移動してすぐ、参加者がマムシの死骸発見。田代先生にかかってはこちらもすぐに教材となりました。「マムシの尻尾はどこでしょう？」答えは、お尻の方にうろこの数が1枚から2枚に変わる部分がありそれ以降が尻尾です。

その後もコロナ対策として午前中(3時間)に限定した観察時間内に、資料に基づく30以上ものテーマをテンポよくご説明いただきました。

限られた紙面にその全ては紹介できませんので、ほんの一部ですが紹介させていただきます。

ご興味いただいた方には次回観察会に是非ご参加いただき、田代先生の説明を直にお聞きいただくことをお奨めいたします。

・母の愛を感じさせるような植物の温かさ

【プラタナス】 葉の柄に隠れた新芽(葉柄内芽) 一般的に葉腋(ようえき：葉の腋)には芽ができますが、プラタナスには見当たりません。それは母の体内のような葉柄の中にあり、しっかりと守られていました。

・植物の個性あるこだわりに感動

【ヤブガラシ】 ツルのつき方、出方、巻き方 ツルのつき方を見ると-ツル-ツル-休み-ツル-ツル-休み-の規則性が見られます。また巻き方はツルの先が物につかまり固定したのち真ん中あたりからツル自身がよじれた仮撚り状態で、延せば真



【ツルの出方実物で説明】

っすぐに。

・意地らしいほど精巧に

【ユリノキ】 芽のマトリョーシカと葉仕舞い 托葉で包まれたユリノキの芽の内部をカッターで切り開いてみるとマトリョーシカのように次々と托葉ときれいに折りたたまれた若い葉が現れます。冬芽の収納には植物それぞれにこだわりの葉仕舞い(葉の折り畳み)が見られます。



【ユリノキのマトリョーシカ】

自然にまつわる感動の話はまだまだ続きますが、残念ながら、やはり、ほんの一部の紹介に終わってしまいました。次回はみなさんご自身の目と耳で田代先生の”目からうろこのお話”をご堪能下さい。